



吉田で陶石が発見された1577年。肥前吉田焼のはじまりは、まさにこの陶石の発見がきっかけといわれています。後に佐賀藩の礎を築いた鍋島直茂が、朝鮮半島から連れて来た陶工達の一部を吉田に送り込み陶磁器製造が始まったといわれています。その後、吉田は佐賀鍋島藩の三支藩の一つ、蓮池藩の領地となり、初代藩主鍋島直茂は陶磁器生産の振興を図りました。1650年代には、いわゆる中国写しの「色絵判手仙桃図」といった吉田オリジナル呉須赤絵様式が確立し、高い技術と感性が磨かれました。1670年代頃には本藩の命で上絵が禁止されたこともあったといわれていますが、赤絵を使わずとも、「雲龍見込荒磯文」の碗など、見事な染付の雑器などを作るようになります。明治に入ると、旧士族たちを中心として陶器製造会社「精成社」を設立します。その後、中国へ販路を作り、朝鮮半島との貿易も始めました。吉田の中でも朝鮮への販売拡張に成功した大渡家や大串音松は、それぞれ製品に「大渡」や「大音製」の銘を入れブランディングにも成功。有田焼や波佐見焼も吉田の商社を通して海外へ売られました。戦後はうれしの茶を特産に持つ地域柄、昔から土瓶や急須などの茶器を製造するところが多い一方、時代に合ったアイデアで独自の道を切り開くスタイルも脈々と受け継がれています。

● 嬉野市 吉田皿屋



発行：肥前吉田焼窯元協同組合

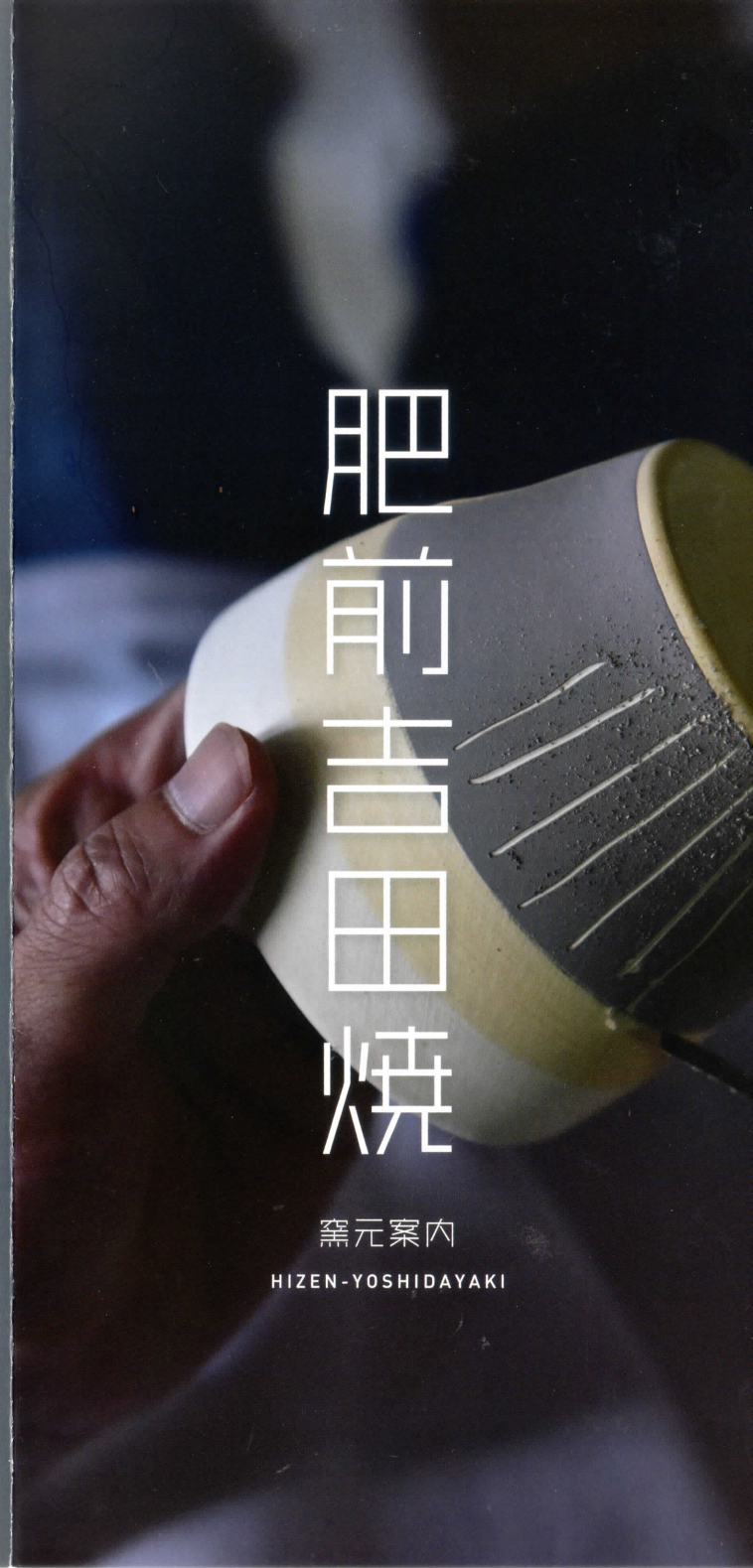
〒843-0303 佐賀県嬉野市嬉野町吉田丁4525-1 ☎0954-43-9411

<https://www.yoshidayaki.jp/>

肥前吉田焼

窯元案内

HIZEN-YOSHIDAYAKI



ようこそ。
ここが肥前吉田焼の里、
吉田皿屋です。

佐賀県嬉野市の山間の町・吉田。古くから磁器製造を行う集落だ。
製陶所周辺にはそれらを支える陶土や生地、
絵付けを専門にする業者も点在し、生産地ならではの景色が見える。
おおらかな自然に抱かれながら、毎日コツコツ、コツコツ。
暮らしのモノを生み出す職人たちは伝統だけにこだわることなく、
いつの時代も“今”を見つめている。



HIZEN-YOSHIDAYAKI

四百年以上の歴史を誇る 肥前吉田焼

水玉が進化する 副千製陶所

吉田焼の代名詞にもなった水玉の茶瓶や湯呑。白地に紺色の化粧土を付け、丸くくりぬいたデザインだ。代々水玉のモチーフは同じだが、時代の水玉がある。レトロ感ある先代のデザインから一新、今は化粧土の面積を減らし凛としたシンプル感を追求。水玉のマルは「掻き落とし」の技法を採る。イメージ通りのマルを作ろうと、独自に道具まで開発した徹底ぶりを見事。

嬉野市嬉野町大字吉田丁4116-14
☎0954-43-9704



個性で仕掛ける 副正製陶所

量産体制から、バリエーションに富む雑器製造に舵を切り、デザインに力を注ぐ。立体図面から試作型の制作も行い、少量注文にも応えられる柔軟性。加飾を武器に、従来のものにとられないデザインを多く仕掛ける。特に茶碗や湯呑生地の表面に化粧土でデコレーションする装飾法「イッチン盛り」を得意とし、新しく、豊かな食卓を創造する。

嬉野市嬉野町大字吉田皿屋4115
☎0954-43-9408



食卓をくすぐるヘタウマ理論 副武製陶所

Tシャツ型の小さな箸置きに染付で描かれているのはお相撲さん。意表を突くお茶目・おセンチなポーズが笑いを誘う。決して芸術的「ウマウマ」であってはいけない。手描きならではの絶妙なヘタウマ加減が“今”の時代を物語る。自由なデザインができるTシャツに着想のヒントを得て、ひと目で笑えるゴリラやおじさんなどをシリーズ化。柔軟な発想力が魅力。

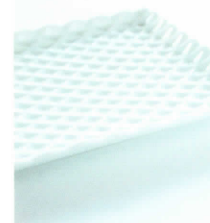
嬉野市嬉野町大字吉田丁4115
☎0954-43-9437



自由発想で“今”に挑む 辻与製陶所

安政年間の創業以来、赤絵や染付、しのぎ等伝統技術を大切にしてきた。そして今、自由なものづくりに挑む。ダイヤ彫りの銘々皿をはじめ、時代が求める工業製品やオブジェも多く手掛ける。手づくり、手描きならではの良さはそのまま。試作型から自社で作る環境を整え、機能性や造形美を効率的にデザインする強みもある。時代の多様なニーズに応える。

嬉野市嬉野町大字吉田丁4666
☎0954-43-9432



時代の柄を茶器に写す 新日本製陶

完璧な量産体制で花柄の土瓶や急須を得意とする。「銅版転写」という技術で絵柄を写す作業や、一つの商品を6~7パターンに分けて絵付けする作業で効率的に出荷。すべて手作業だ。主力は時代が好む花柄。ヒョウ柄など特徴的なデザインもある。社長自ら商業施設に営業し、現在の工場直送という独自の販売ルートを開拓した歴史も見逃せない。

嬉野市嬉野町大字下野甲2304-1
☎0954-43-9201



食卓を便利に楽しみたい 江口製陶所

手掛けるのはスタイリッシュで効率を求める現代人のための器。中でも「金彩」を入れたプレートシリーズは、飽きのこないシンプルさ。正方形と長方形が大小あり、スタッキングできる機能性を求めた。収納に便利で手軽に食卓の演出ができる。かつては旅館用の茶わんや湯呑を全国に届けていた。「毎回いかに丁寧な仕事をするか」というものづくりの姿勢は変わらない。

嬉野市嬉野町大字吉田丁4753
☎0954-43-9421



吉田の素朴さと実用性を売る ヤマダイ

地元唯一の産地問屋で、広く全国に吉田焼の魅力伝える。おおらかな自然の中で生まれた吉田焼は、自由で素朴。手描きならではのあたたかさや丈夫さがある。それにリーズナブル。家庭用から業務用までぎっしりと在庫をそろえる。嬉野市がお茶の特産地であることから茶器を多く扱うが、肥前においてはそばちょこや丼などで特徴を出す工夫も。吉田焼の発展を古くから支えている。

嬉野市嬉野町大字吉田丁4051
☎0954-43-9214



吉田焼の情報ならここで 肥前吉田焼窯元会館

吉田皿屋の拠点となる施設。ギャラリーには吉田焼窯元の商品が一同に並び、お土産選びに立ち寄りたيسポット。絵付けや手びねりなどの体験コーナーも充実している。新設されたティースタンドでは、「嬉野スイーツティーセット」やテイクアウトスタイルで楽しむ嬉野茶「歩茶」が楽しめる。

嬉野市嬉野町大字吉田丁4525-1

☎0954-43-9411
営/8:30~16:30 ※体験受付時間は8:30~15:00
休/年末年始

